



～ 胃がん検診 ～

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させることです。単に多くのがんを見つけることが、がん検診の目的ではありません

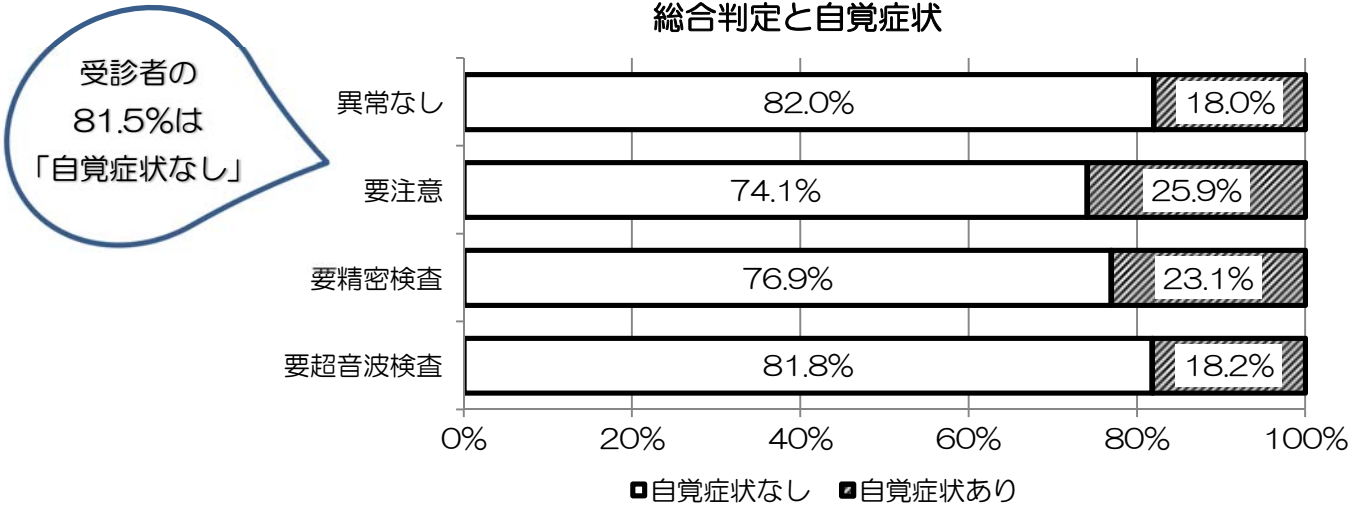
《H26年度 胃がん検診結果》

異常なし	要注意	要精密検査	要超音波検査	計
938人	27人	52人	11人	1028人
91.2%	2.6%	5.1%	1.1%	100.0%

《検診の対象は症状のない人》

- ☆ 無症状のうちに「がん」を早期に発見し治療することが大切です。
- ☆ 無症状の人には進行がんが少なく、早期のうちにがんを発見することができます。
- ☆ 早期発見・早期治療は、がんによる死亡のリスクを軽減することができます。

総合判定と自覚症状



無症状でがん検診を受け、「異常なし」の判定がされた場合、多くの人々は「がんがない」ことで安心します。これもがん検診のメリットということができます！

《「要精密検査」判定 52人のかたの精密検査受診状況》

(延べ件数)

精密検査受診者	精密検査受診率	がん	胃潰瘍	ポリープ	十二指腸潰瘍	胃潰瘍癒痕	十二指腸潰瘍癒痕	慢性胃炎	その他の良性疾患	胃以外の疾患	異常なし
46	88.5%	2	2	14	2	6	3	23	4	2	3

がん情報サービスHP（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター）より
 早期胃がんの場合は、多くの患者さんが検診によって発見されています
 毎年定期的に検診を受けることが、早期発見のために最も重要なことです